

いつもお世話になっております。

今月分の請求書を送付いたしますので、何卒ご査収の程よろしくお願い申し上げます。

今年は暖冬の予報が出ているそうですが、日増しに寒くなってきました。皆さまはいかがお過ごしでいらっしゃいますか。

京都の醍醐寺で、「水晶宝龕入り木造阿弥陀如来像」の特別公開を12月10日まで開催しています。友人から「すばらしい」と聞き、早速行ってきました。

「水晶宝龕入り木造阿弥陀如来像」は、2002年に同寺で発見され、今回が初公開です。高さ5.5センチの金色に光る阿弥陀如来像が、蓮の蕾の形をした水晶のなかに入っています。仏像の顔の作りや衣の着方などから、鎌倉前期に快慶が作った可能性があるということです。

醍醐寺といえば、晩年の豊臣秀吉が「醍醐の花見」を催したことで有名です。9月の台風21号の影響で、京都の寺社仏閣の多くに甚大な被害がでていたと聞いていましたが、醍醐寺でも桜の古木が倒れるなど、500本以上の倒木被害があったそうです。2か月たった今も、まだまだ復旧の途中でした。

初公開であれば、人山ができていたのではないかと考えていましたが、紅葉にはまだ早く、京都駅や四条といった有名観光地から少し距離があるためか、観光客は少なめでした。

鉱物好きの私としては、仏様より水晶のことが気になります。大抵、水晶の内部にはクラック（割れ目）や、インクルージョン（内包物）があります。水晶はどこにでもある鉱物ですが、クラックやインクルージョンが少なく、透明感の高い水晶は貴重でそれだけ価値があがります。（内包している鉱物の種類や形状によって、逆に価値が上がる場合もあります。）彫るためには、出来上がりサイズの倍ほどの大きさの結晶が必要になるはずですが、今なら世界中から選りすぐりの透明感の高い大きな水晶を取り寄せることも可能でしょうが、当時であれば日本産か中国産の水晶を使ったのではないかと思います。どちらにしても手に入れることは難しく、大変高価なものだったに違いありません。

仏像は、透明感の高い部分にお姿が配置され、インクルージョンは足下に配置されていて、まるで雲が湧き立っているかのようでした。透明感の高い水晶を探し、つぼみの優雅な形を彫りだし、その中央に仏像が収まるサイズの穴を慎重に明け、（クラックやインクルージョンの部分はとても割れやすいのです。）中の仏像が美しく見えるように、丁寧に丁寧に時間をかけて滑らかに磨かれたに違いありません。すべてが手作業です。想像するだけで気が遠くなります。

仏像も自体も、水晶の中に入れることで細くみえるため、一回り大きく作られているそうです。水晶の中に閉じこめられていたおかげで、金箔は当時のままの光を携えていました。この写真ではわかりませんが、蓮の茎の部分や台座の部分もとても素晴らしい造作でした。

とても貴重な物を拝見することができました。もし近日中に京都に行かれるご予定があれば、いかがでしょうか。

あっという間に、年末がすぐそこまで近づいていました。ますますお忙しいでしょうが、どうぞご自愛くださいませ。



水晶宝龕入り木造阿弥陀如来像



立派な桜の木も倒れていました



ホテルグランヴィア京都さんの
開業5周年記念植樹。枝垂桜でしょうか。
また桜の時期に見に行きますね。